

ウォッチ安保国会「良い国作る努力壊すな」

写真は2013年12月に撮ったものだ。写真を整理していて見つけた。「特定秘密保護法」制定に反対する集会が名古屋栄の公園で行われた。法案が衆院で強行採決され、緊迫する状況のもとで、3000人近くが参加したと記憶している。当時、602セミナー室で連日「緊急昼休みサロ」を開催し、中日「発言」、朝日「声」に投稿するなどしていた。そんな中で珍しく集会に参加した。

すると、なんと水田洋先生が「飛び入り」で発言されたので、近くまで行って写真を撮った。師走の寒風が吹き付ける中、94歳の水田先生が参加されるとは思ってもいなかった。確か先生は戦前の「横浜事件」のことなどを話されたが、参加者はじっと耳を傾けていた。



水田洋先生は研究者として著名だけでなく、社会的な活動でも重要な役割を果たされてきた。2007年1月4日のレポートに書いたように、宮本憲一先生の「京都新聞大賞祝賀会」のあと、先生と名古屋まで一緒に帰った時のことを思い出す。

最近でも表題のように、朝日新聞8月6日ウォッチ安保国会「良い国作る努力壊すな」として、水田洋先生を取りあげている。記事を紹介したい。

名大教授らを発起人に、「自由・平和・民主主義を愛し戦争法案に反対する名古屋大学人の会」が5日に発足した。大学の会議室での記者会見に、名誉教授で95歳の水田洋さんが姿を見せた。社会思想史研究で日本の第一人者。両手でマイクを握り、思いを語った。

現・一橋大を卒業し、1942年に23歳で政府系調査機関から軍属としてジャワへ。「研究の後を継ぎます」と言う大学の後輩たちに、「俺が簡単に死ぬようなことを言うな」と返した。その後輩たちが、戦争末期の学徒出陣で逝った。

会見で無念さを語り、「私は戦争世代です」と力を込めた。「同世代が良い国を作ろうとしてきた努力をぶち壊そうとしているのが安倍内閣。後輩たちのためにも反対しなければならない」

名古屋市で自宅で書物を読むなど研究を続けるが、国会での首相答弁に「言葉が軽い。答えていない」といら立ちが募る。名大の元総長や教職員、学生ら約120人が呼びかけ人となった会の1人として、発言していく。

(2015年8月27日)